

## CTを使った 肺がん検診のはなし

- 12 -

やっと、CTにたどり着きました。胸部単純X線写真(以下、単純写真と略す)について、これまで何回かに分けてお話ししてきたことは、そのまま、X線を使った検査法のひとつである胸部CTに応用できます。では、単純写真とCTの違いは、何でしょうか。

まず、単純写真は2次元画像であるのに対して、CTは3次元データだということです。

私たちの身体は、3次元的なものですから、それを3次元データにして記録できれば、それにこしたことはありません。しかし単純写真は、3次元の世界を



2次元データとして記録するわけですから、X線の照射方向に存在する既存構造や病変は重なって投影されることとなります。

もうすこし具体的にいうと、心臓や肝臓や骨に重なった小さな病変は、X線写真上では、見



難くなるのです。この重なりの(重積)を避けるために考え出されたのが、断層撮影法でした。CTが登場するまでは、断層撮影が肺病変の診断などに活躍していました。この断層撮影の技とコンピュータ技術を組み合わせたのが、CTです。

CTは、このシリーズの2回目で書いたように、computed tomographyの略で、日本語にすると、コンピューター断層撮影法ということになります。在来の断層撮影は、たかだか5mmの層を切り出すのが限界でしたが、最近のCTでは、ヒトの身体を0.5mmの薄層にして、診断することができます。

(以下次号)

(写真=「臨床医 vol.29」より。詳しくはこのページ右下に解説。)

## 健康講座 「からだのリズムを整える」

講師：于海(Yu Hai)先生

北京出身・医師。  
岐阜大学医学部にて研修  
(免疫病理)  
現在岐阜大学工学部(生命工学)にて研修中。

とき：第8回  
2005年10月28日(金)  
10:00～11:00

テーマ：「眼・背中・足で診る」  
参加費：無料  
申込み：参加ご希望の方は、当診療所までご連絡ください。

### ～健康講座を聴いて～

テーマ 『顔で診る』

東洋医学では、健康状態を把握する時、姿勢・歩き方・顔等、からだ全体で診るそうです。今回はその中から「顔」についてのお話を伺いました。

対面して顔を見たとき、特定の部分(=図1)に現れる変化から、病があるとおもわれる体の部位がわかるそうです。また舌(=図2)からもからだの状態をうかがい知ることができるそうです。

(図1)



(図2)

私たちはよく漠然と「顔色が悪い」「舌が白っぽい」とか言いますが、こういったことをふまえて細かに観察すると頷ける発見があるかもしれませんね。



## 山登りで息抜きを

とどがみね  
～百々ヶ峰散策～

十月。

秋本番に向けて、野山は徐々に紅葉の季節の準備を始めています。

初秋の百々ヶ峰、松尾池を写真でお楽しみください。

毎週、百々ヶ峰に登っています。どうぞご参加ください。

とき：毎週 土曜日の朝(雨天中止)  
7:00 松尾池集合

持ち物：お茶、タオル

服装：ズボン  
底の厚い運動靴



百々ヶ峰 ススキと萩



彼岸花



松尾池の様子も秋へと変化...

「レントゲン(X線)とCT、見え方の違い」  
<A> 検診胸部X線単純写真：心に重なった左胸部に超20ミリ大の結節影(部分)を指摘された。

<B> 高分解能CT：充実性の腫瘍で、内に小気管支が開存している。腫瘍の辺縁には粒状構造物(▶)が付着しているように見える。肺血管の収束はない。病理組織診断：リンパ腫